

## 「東アジア共同体」構想と日韓の地域主義外交

第 11 回 One Asia 財団国際講座は徐興慶学長の招聘により、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科李鍾元 (Lee Jong Won) 教授の講義が行われました。李教授は東京大学で博士号を取得され、現代東アジア国際政治関係と朝鮮半島の研究で有名な韓国人学者です。徐学長は特に、例として、日本の NHK テレビ番組「日曜討論」で、討論のテーマが朝鮮半島問題になった時。李教授が解説を求められ、重要なコメントを発表したことを挙げ、李教授を日本社会で著名で尊敬されている専門家であるとして称賛しました。講演の後、李教授は特別に張鏡湖理事長を表敬訪問、今年 10 月に発刊された「朝鮮半島 危機から対話へ」を贈呈し、懇談をされました。

李鍾元教授は、『東アジア冷戦と韓米日関係』（東京大学出版会 1996 年）などの代表作に加えて数多くの本を著されています。「戦後日韓関係史」（有斐閣、2017 年）、「東アジア 和解への道」（岩波書店、2016 年）、「国際政治から考える東アジア共同体」（ミネルヴァ書房、2012 年）等。この講演のテーマと併せて、李教授は 1990 年以來、東アジア地域協力システムの具体化の動向を見て総合的に判断し、ASEAN 諸国と中国、日本、韓国の外交戦略を分析するために、「東アジア共同体」という概念を用いました。80 分の短い講義の中で、教授は学生に問題を教えるために最善を尽くし、時には学生の聴講の様子に注意を払い、最も理解しやすい方法と言葉で内容を表現し、学生にとって最高の学習結果を達成させることができました。その授業の姿勢は感服させるものでした。以下は、李教授の講義の概要です。

1990 年代から 21 世紀にかけて、国際政治の新しい単位「地域」が起こってきました。冷戦終結後、対立の状況は徐々に緩和され、グローバリゼーションの影響により近隣諸国の相互依存が急速に深まりました。「地域化」と「地域主義」の潮流下、欧州連合 (EU) など全世界 173 の地域機関が存在します。例えば (EU)、アフリカ連合 (AU)、ASEAN など。近年、ヨーロッパを牽引する流れとして、英国の EU 離脱 (Brexit) と様々なナショナリズムの蔓延がありますが、地域一体化への反動が出てきていても、EU (欧州連合) の枠組みを維持するという考え方は依然として強く残っています。これは、「地域共同体」が、グローバリゼーションの恩恵を享受しつつ、その副作用を抑えつつ、主権国の限界を超越することが期待されるからです。

まず、「地域共同体」の意味について考える必要があります。「東アジア共同体」の概念と機能は、米国と中国の間の勢力争いに代わるものとして、また民族主義の枠組みを超えたものでもあります。次に、政治学の観点に立って、地域は創られるものであり、地理的実体だけではなく、歴史的、政治的、認識的な営みの産物でもあります。例を挙げると、「北大西洋条約機構 (NATO)」という名前は、第二次世界大戦の終結後、西ヨーロッパと米国の同盟の一体化を創り出すことに由来しています。もう一つの例として、1980年代の経済性から、1990年代の国際政治に至る変化への過程で「東アジア」が出現しました。最近では、日本と米国は「インド太平洋」を提唱しています。李教授は、基本的な考え方を説明した後、「東アジア」の形成過程について政治学的にさらに詳しく述べました。

1990年代には、「東アジア」が「共同体」を目標として変化し始めました。ASEAN諸国の支持の下、日韓の加盟は「東アジア共同体」の構想を大きく発展させました。ASEAN諸国、日本、韓国などは、ミドルパワー外交の一員として、地域協力の制度化を促進することを目標としています。1997年のアジア通貨危機の中でASEAN + 3 (日中韓) 会議が開催され、東アジアの最初の地域枠組みが誕生しました。2001年、韓国の金大中 (キム・デジュン) 大統領の提案で、ASEAN + 3は長期的目標として「東アジア共同体」の創設を決めました。「東アジア共同体」は将来的な理論展望だけでなく、地域の諸国が政策課題を協議すべき場でもあります。2005年東アジア首脳会議 (EAS) は新たな段階の始まりとなりました。

しかし、東アジア首脳会議に参加した各国の衝突が浮上し、「東アジア共同体」の進展は大幅に遅れました。この背景には、「中国の台頭」にどのように対処していくかという問題があります。中国の影響力の増大を見据え、バランスを保つために、オーストラリア、ニュージーランド、インドが創設国として、東アジア首脳会議に参加しました。2011年には、米国とロシアも参加し、現在は18の国家の体制になっていて、「東アジア」圏における国際政治のしのぎを削る場もなっています。しかし、毎年、東アジア首脳会議は、地域協力と比較して、加盟国が「中国問題」について議論する場となっています。中国は東アジア地域主義への関心を失い、そして例えば「一帯一路」などの手段によってユーラシア大陸を中心とした広域経済圏の形成を目指すなど、より巨大な経済力を発揮する方向へと変えました。一方で、米国と日本は、中国の進出を牽制して「インド太平洋」の枠組みを立ち上げました。

要約すると、いわゆる「東アジア共同体」には、広義では東アジアにおける地域協力を

関連するさまざまな視点の概念が含まれていて、狭義には、2002年にASEAN + 3が将来の目標として明らかにした構想を指します。しかしながら、「東アジア共同体」構想は停滞しています。2016年に設立されたASEAN 経済共同体（AEC）は、世界的な関心を集めており、東南アジアにおける経済統合のさらなる統合を象徴しています。同時に、中国、米国、日本などの主要国が新たに提案した「ASEAN 戦略」は、「ASEAN 経済共同体」との交流を強化するものです。また一方で、米国は「アジア太平洋」と「インド太平洋」という概念を提案しており、中国が促進しようとしている「一帯一路」に基づくユーラシア大陸の統合も競合していて、これらの地域構想の競合で、「東アジア共同体」がまさにそれらの交差点に立たされています。

李鍾元教授の思考の論点は三点あります。

1. 「アジア人」（「東アジア」）アイデンティティはあるのか？
  - ・ 地方、国籍、地域、世界： アイデンティティの重層性
  - ・ (東) アジア人の共通性は何か
2. アジアの地域協力（地域統合）の障害要因は何か？
  - ・ 不信感の理由は何か？
3. どのような地域を創るべきか？
  - ・ 米中の中で、域内国の連携と協力

講義の後、生徒から活発な質問が飛び出しました。日本語科3年の陳宥霖は米・日・インド・オーストラリアの地域枠組みを提案しました。その目的は中国を牽制することで、冷戦期のNATOを想像できるかどうかということです。新聞科の4年溫馨は、「ポピュリズム」の出現とそのことへの反対理由を尋ねました。また日本語科4年の朱湘瑩は、現在の米国とインドが加盟している「東アジア共同体」の概念が、どのように拡大するのかという疑問を提起しました。李鍾元教授は学生の深い質問に大変喜び、何度も本学の学生の知の探求精神を賞賛しました。

（原稿：黄美恵・日本語科助教授、日本語訳：武石信一）